

## ぼくらが作る生物空間

対象：小学校 4 年、5 年、6 年

人数：1 グループ 10 人以下

教科/分野：総合学習(理科・社会・美術・生活科)

授業時間数：1 回あたり 45 分単位×2 (年間を通して実施)

場所：・東金市油井前後谷(とうがねし ゆい ぜんごや)/・学校周辺の里山

ESD プログラムへの 思い	1. 子どもたちが自然のなかで遊び、いろいろな生き物を観察する 2. 耕作放棄された里山を昔のような田んぼや畑に戻し、土を感じ、森の香りを体験する 3. たくさんの植物や生物が生きる環境を作る		
目標	学校周辺での里山体験を通じて、 ・学習者が生きるとは何か？を問い直すことができる ・学習者が地球と人類の健全な発展に何が必要か？を考えることができる		
特徴	下記の点が特徴のプログラムとなっています。 1. 四季の里山の変化を知る 2. 自分の手で皆と協同して、土を耕し、作物を育てて、収穫する。 3. 里山の枝木で火をおこし、調理して食べる。		
持続可能な社会づくりの 構成概念	多様性：耕作放棄された里山に、いろんな生き物が再び生きる環境に甦らせる。 相互性：耕作放棄された里山の田んぼや畑に再生し、持続するには、多くの人の農業や林業の知識と協力が必要となる。 有限性：里山は有限ですが、将来世代のために、その緑を 1000 年のちにも残すことができます。		
重視する能力・態度	1. 従来の農林業に対して批判的に考える力 2. 農林業の未来像を予測して計画をたてる力 3. 田んぼビオトープを多面的・総合的に考える力 4. 協同作業をするためのコミュニケーションを行う力 5. 進んで作業に参加する態度		
プログラムの流れ			
時間	ねらい	方法・場所	内 容
2～ 4 月	地番振り	谷津田 (120 分)	毎週日曜 10～12 時 カエルとサンショウウオの卵塊調査(自由参加)
5 月	里山の自然観察	学校 (45 分)	【4 年生】 里山オリエンテーション 生き物の連鎖、野外の危険な生き物、野外観察の服装と持ち物
		里山 (90 分)	・学校周辺 ・春の自然観察会

5～ 8月	無農薬の効果	谷津田 (120分)	毎週日曜 19時～21時 ・エリアを分けてゲンジとヘイケのホテルをカウント(家族で自由参加)
6月	田植え体験	谷津田 (90分)	【5年生】 ・苗の植え方 ・グループ分けして協力作業
7～ 8月	稲の観察	谷津田 (月1回)	【5年生】 ・田んぼの草取り ・稲の記録写真 (自由参加)
9月	自然観察会	学校周辺 (90分)	【4年生】 ・秋の自然観察会
10月	稲刈り	谷津田 (90分)	【5年生】 稲刈り体験
11月	ふれあい祭り	学校祭	【全校生徒】 ・里山遊び ・ゲームやクラフト
12月	自然観察	学校周辺 (90分)	【4年生】 冬の里山
3月	里山体験で得えたものは	学校 (90分)	【6年生】 谷津田学習発表会
SDGs との関連性	3. 健康と福祉 4. 質の高い教育 9. 産業・技術革新・社会基盤 11. 持続可能なまちづくり 12. 持続可能な消費と生産 15. 陸上の資源 17. 目的達成に向けたパートナーシップ		
学校・地域等との連携上の考慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子での参加体験は、お互いが学び合う良い機会になるので、学校から連絡してもらおう。</li> <li>・野外活動のため、安全管理のため事前打合せをする。</li> <li>・体験学習等の場として多くの団体利用をお願いする。</li> </ul>		
対象を発展させる可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に1回、里山遊びの目を設け、倒木を加工してアートにする。</li> <li>・野外ギャラリーに里山遊びで作った作品を展示する。</li> <li>・ファミリーでのキャンプ利用を可能にする。</li> <li>・イベントのときだけでなく、日常的な里山保全活動への参加を呼びかける。</li> </ul>		
その他補足事項	<p>服装：長袖、長ズボン、長靴、動きやすい服装、帽子。 持ち物：網、虫かご、タオル、飲み物、虫刺され薬品等 熱中症対策、防寒等の季節に適した服装など気をつける。</p>		

プログラム作成者名（団体名）：梅室政司（ときがねウォッチング）